

1 学校として目指す授業

学力の定着と学習意欲の向上に向けて、誰にでもわかる授業づくりを目指す。

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数共に、全観点で全国平均正答率を下回っている。 ・国語では、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」の領域において、国との差が開いており、課題がみられる。 ・算数では、全校区平均正答率をやや下回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点において、国との差が見られ、課題を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対して取り組めていないと回答した割合が全国と同程度であった。 ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思えますか」という質問に対しては「あまり思わない」と回答する児童の割合が多い。 ・「読書は好きですか」「国語や算数の授業の内容はよくわかりますか」という質問に対しては、肯定的な回答をする児童が全国より低い。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

- ・調査の分析から、国語と理科の授業の内容に対して「よく分かる」と答えた児童や国語と理科に対して「得意」と感じている児童の割合が低いことが分かった。国語では、読み取りや書いて表現することに苦手意識をもつ児童が多いため、上記のような意識を持っていると考えられる。理科では、新しく出てくる理科用語に苦手意識をもつ児童が多いため原因であると考えられる。
- ・学習意欲に関しては、前向きな回答が多い。しかし、国や市の学力調査の結果は、正答率が低かった。その理由は、粘り強く取り組めていないため、習熟が不十分であることが考えられる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

国語の基礎・活用では、全てにおいて目標値を下回っており、領域では「書く」ことでの正答率が極端に低い。また、漢字を読むことに関しては目標値を上回っており、正答率も高いが、漢字を書くことに関しては目標値を大きく下回り、正答率がかなり低いことから漢字の習熟が十分でないことがうかがえる。観点別正答率も全てにおいて目標値を下回っている。特に主体的に学習に取り組む態度の正答率が低い。これは、分からなかったらすぐに諦めてしまっているのが原因と考えられる。算数では、基礎・活用、領域別、観点別全てで目標値を下回っている。特に図形に関する学習と小数のわり算の正答率が低い。これは既習事項を活用する力が十分でなかったり、既習の四則演算を正確にできる力が十分でなかったりするためと思われる。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

- ・東京都統一体力テストの結果では、体育の授業中には、友達と一緒に活動する中で、友達の動きや取り組みを参考にしている児童が多く、それが運動への達成感や体育の授業の楽しさにつながっていた。
- ・東京都小学校道徳部による3年生以上へのアンケートでは、目標に向かって努力やチャレンジをしたいと思っている児童が多くいることがわかった。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・低学年の基礎基本の問題（たしざん・ひきざん・ひらがな・カタカナ）でつまづいている児童がおり、自信のなさから取り組む前に「できないだろう」と考えてしまう児童もいる。低学年の基礎基本の学習を身に付けさせる必要がある。
- ・中高学年では、問題を読んで文意やイメージを捉える力が低く、未解答が多いため、よく読んで理解する力をつけさせる必要がある。
- ・自信のなさから、学習課題に対して消極的になりがちだったり、最後まで粘り強く取り組めなかったりする児童が多く、様々な学習経験を通して達成感が得られるようにする必要がある。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

基礎基本の反復と、達成感が得られるような学習課題の設定

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・ひらがなやカタカナ、漢字の習得における反復練習の期間を十分にとる。 ・ペア学習で意見を話したり聞いたりする達成感を実感できるようにする。	○	/	/	・授業の最初に前時の復習ミニテストや確認の時間を取るなど、基礎基本の反復を行う。	◎	/	/	・生き物や動植物の観察カードに気づいたことをまとめる活動を通して、生命の大切さに気づけるようにする。	○	・知識・技能の定着のために、スモールステップで繰り返し学習する活動を積み重ねる。	○	・様々な道具・用具を体験させて、楽しんで制作出来る環境をつくっていく。	○	/	/	・基本の動きを毎時間初めに繰り返して取り組むことにより、できる動きを増やして達成感へとつなげる。	○	/	/	・自分の考えを表現しやすいように名前磁石を使用したり、黒板に残るようしたりすることで、活動への参加が視覚的にわかるようにする。	○
中学年	・漢字の習得における反復練習の期間を十分にとる。 ・グループ活動で意見を交換しあい、自分たちで課題解決する意識を持たせる。	○	・学習課題を予想したり、振り返りを自分でまとめたりし、書く力や自分で考える力を深める。	○	・習熟度別指導により繰り返し学習、補充的な学習を取り入れ、基礎・基本の定着を図る。	◎	・実験や観察の前に予想する時間をとり、自分の考えを持って活動できるようにする。	○	/	/	・他者との学び合いを通して、自らの音楽表現や考えを広げていくような活動を取り入れる。	○	・自分なりの表現を考えさせ、そのためにどんな手順を経ていけばよいのかを逆算させてく。	○	/	/	活動の様子を動画で撮り、振り返りや次回への目標を作り、自分の考えのもとで動けるようにする。	○	/	/	・自己の考えや友達の意見を多様な視点から話し合う活動を意図的に設定する。	○
高学年	・漢字の習得における反復練習の期間を十分にとる。 ・グループ内で意見交換したり、自他の考えの相違点を確認したりする場を適宜設定する。	○	・学習課題の予想をすくと共に、調べたことをグループ内で発表し合う場を設定し、理解を深める。	○	・繰り返し学習を重視するとともに学び合う機会を増やし、意欲や達成感を高める。	◎	・二つの自然現象や変化を関係付けながら実験や観察を行う。	○	/	/	・既習事項を次の学びに生かしながら、主体的に学習できるようにする。	◎	・制作の意図を理解させ、どうしたら自分なりの表現の工夫ができるかを考えさせる。	◎	・学習したことを日常生活にいかす機会を多く設ける。☒	◎	・各時間の学習でのめあてを明示し、達成できているかどうかを見て、考えて、判断して、友達に伝え合う活動を設定する。	○	・自分の伝えたい内容を、既習の内容を生かして考えて、友達と表現し合う活動を設定する。	○	・読み取り問題にならないよう、自分のこととして捉える。	○